

『天北原野』移動展

三浦綾子記念文学館（旭川）移動文学展



8月23日（土）～9月5日（金）の毎日

午前9時～午後9時 無料

「ふらっと★きた」情報交流コーナーにて

主催：豊富町教育委員会



豊富町は、作家 三浦綾子の小説『天北原野』の舞台です。

（三浦夫妻 ↑）

昨年、旭川の三浦綾子記念文学館で行われた特別展が、舞台となった市町村を巡ります。

生きにくいとも言われる今の世の中。デビュー作、『氷点』発表から50年、改めて三浦綾子が注目され、作品が売られています。

三浦綾子が伝えようとしたことを、5つの質問と答えにまとめ、パネルでご紹介。

さらに、『天北原野』にまつわる品々を展示。

生きることの意味を問い直すきっかけとなれば、幸いです。

三浦綾子コーナー

図書室で、三浦綾子の本や関連する本を集めてご紹介。この機会にぜひ。

森下辰衛講演会

（三浦綾子記念文学館 特別研究員）

「生きる力 三浦綾子の文学～『天北原野』のラストシーンから」

9月2日（火）午後7時～9時 「ふらっと★きた」多目的ホールにて

入場無料、申し込み不要

主催：豊富町教育委員会

「苦難に立ち向かう希望の文学」

長い冬にたくさんの雪が降っても、必ず、春が訪れればすべて解ける～そして大地が花であられる時が必ず来る。

生きていくことは、大変な苦難を伴うこと。救われなってしまう。しかし、その先には必ず希望が見える時がある・・・。

これが、北海道に生まれた三浦綾子の作品が、一貫して語りかけるテーマです。

そして、三浦綾子自身も、苦難に立ち向かう人生を送りました。

大震災の後、三浦綾子の作品が売れています。

生きにくい世の中、迷うことの多い時代。人生に行き詰まることもある。だからこそ、「苦難に立ち向かう希望の文学」が求められているのではないか。

三浦綾子文学の力を信じる森下さんのお話から、皆様方一人お一人の生きるよりどころ、励みとなると感じ取っていただけることでしょう。

面白さと真面目さが一緒になった、ユーモアあふれる語り口と、森下さんご自身の生き様を織り交ぜたお話しに、引き込まれること請け合いです。

ぜひお気軽にご来場下さい。

森下辰衛さん

昭和37年岡山県生まれ。山口大学、同大学院でフランス文学、日本近代文学を学ぶ。

平成4年より14年間、福岡女学院短大、同大学で、日本近代文学やキリスト教文学の講義を担当。

この間に、「三浦綾子」に出会い、研究、紹介する活動を続け、平成18年、三浦綾子記念文学館特別研究員に就任。平成19年、福岡女学院を退職し、家族と共に旭川に完全移住。

平成22年より、東日本大震災の被災地に、三浦綾子の本を届け、励ます活動を展開。

平成23年より、(全国)三浦綾子読書会代表。

旭川を拠点に、全国を飛び回って三浦綾子の心を伝える講演、読書会等の活動を行っている。

今年4月、初の著書『『氷点』解凍』(小学館)を上梓。

同じく4月、NHKラジオ第一放送(AM)「ラジオ深夜便」のコーナー「明日へのことば」に、2日間にわたって出演。好評で、再放送された。



ワークショップ「本子どもと文学」

9月3日(水)午前10時~12時 「ふらっと★きた」会議室にて

入場無料

座長：森下辰衛さん 主催：豊富町教育委員会

子供がより本に親しみやすい環境を整えていくために、子供と文学の出会い、付き合い、触れ合いや、文学が子供に与える影響などを、豊富で子供にかかわる組織の方々が、森下さんを囲んで学び合います。一般の皆さんの聴講 歓迎です。どうぞおいでください。

(町民課 定住支援センター管理係、教育委員会 社会教育係)